



「妻は無責任救急医に

殺された!」

夫が怒りの刑事告訴



子宮外妊娠で出血多量死

伊藤隼也+本誌取材班

現場となったK外科胃腸科(右上)。これが2次救急医療機関?

受けられるだろうと思っ
ていたが、……。結局、あそ
こでは痛み止めだけで、何
の処置もしてくれませんでした。
妻は無責任な救急医
によって殺されたのです」
最愛の妻を亡くした若林
洋介さん(仮名・31)は、
絞り出すような声でこう語
った。東京都世田谷区のマ
ンションでともに暮らして

五分の診察で自宅へ帰った医師

「八月三日は土曜日だった
ので、昼間は二人で妻の災
家の家族と回転寿司に行っ
ていました。そこでは元氣
に会話を楽しんでいますし
た。帰宅後、軽い食事をし
てくつろいでいたところ、
妻が突然、腹痛、嘔吐に苦
しみだしたのです。様子が
良くなかったため深夜
十時半に救急車を呼んだも
の、なかなか搬送先が決
まりませんでした」
最終的に搬送された先
は、世田谷区にあるK外科
胃腸科。東京都の「2次救
急医療機関」に指定されて
いるが、病院ではなく、よ
り規模の小さい病床数二十

いた妻・貴子さん(仮名・
享年28)が激しい腹痛を訴
えて救急搬送された病院で
亡くなったのは、今年八月
四日のことだった。死因は、
子宮外妊娠による出血多量。
貴子さんは、まさに首都
・東京の救急医療における
「谷間」で命を落としたと
言える。若林さんが当日の
様子を振り返る。

「その後、何度か看護師
が見回りにきました。妻は
痛みが治まらず、額に汗
を浮かべて、うめき声をあ
げていました。トイレに行
きたいと言うので身体を起
こしたところ、激痛で気絶
したほどです。看護師が痛
み止めを打ち、「婦人科系
の原因かもしれない」と言
っていたので、私は「今か
ら他の病院に変えることは
できますか」と尋ねたので
すが、「先生が判断しない
と、何とも言えません」と
いう答えが返ってきただけ
でした」
その後、貴子さんは、若
林さんに「その日、遊びに
いく約束だった。友達に電
話しておいて」と話してい
る。本人も、病室に夫と二
人で残された自分が死の淵
にいたことは、まさか思いも
よらなかつたことだろう。
そして、これが最後の
会話となった。

「朝六時すぎには、〇九時
に日勤の看護師がきますか
ら、なにかあれば外線番号
に電話すれば、院長につな
がります」と言い残して、看
護師も帰ってしまいました。
病院がもぬけの殻になった
七時ぐらいいは、それまで
痛みでうなされていた妻が
急に静かになった。ようや
く鎮痛剤が効いたのかと思
っていました。ふと気付い
くと妻が呼吸をしていなか
った。慌てて七時四十分ご
ろに電話したところ、十分
ほどで医師がやってきまし
たが、あまり急いでいる様
子がなくイライラ
しました。心臓マ
フサージや点滴な
どを行いました
が、およそ一時間
後に死亡を知らさ
れました」

「朝六時すぎには、〇九時
に日勤の看護師がきますか
ら、なにかあれば外線番号
に電話すれば、院長につな
がります」と言い残して、看
護師も帰ってしまいました。
病院がもぬけの殻になった
七時ぐらいいは、それまで
痛みでうなされていた妻が
急に静かになった。ようや
く鎮痛剤が効いたのかと思
っていました。ふと気付い
くと妻が呼吸をしていなか
った。慌てて七時四十分ご
ろに電話したところ、十分
ほどで医師がやってきまし
たが、あまり急いでいる様
子がなくイライラ
しました。心臓マ
フサージや点滴な
どを行いました
が、およそ一時間
後に死亡を知らさ
れました」

「現地に着いて、「救急病
院はどこにあるんだろう」と
と探してしまおうほど粗末な
建物だったのが最初の印象
です。妹は病室のベッドに
横たわっていました。点滴、
点滴や医療器具の類も見当
らなかつた。ほんの少し前
まで実家の母と子育てにつ
いて楽しそうに話していた
妹の変わり果てた姿を目的
の当りにして、涙がとまり
ませんでした。病院側から
は「原因が分かりません」
と言われましたが、「一晩入
院していたにも拘わらず、
そんな説明しなかつた点

「午前五時に血圧が低下し
て五十を切っていますが、
これは医学的には完全にシ
ョック状態です。このまま
では心臓が止まってしま
う危険な状況なのですが、シ
ョック状態を離脱させるた
めの輸液や酸素投与といっ
た措置を取っていない。そ
れらの処置をせずに鎮痛剤
を投与していますが、痛み
で血圧を維持できているの
で、逆に血圧を下げてしま
う恐れがあります」
さらに論外なのは、ショ
ック状態の貴子さんを置いて、
看護師が帰ってしまっ
たことだ。

驚愕のカルテ「妊娠検査」もなし

「まず当然やるべき妊娠検
査をしていない点が不可解
です。簡単な検査ですか
ら、普通はルーチンとして
行う。研修医にも教えてい

「まず当然やるべき妊娠検
査をしていない点が不可解
です。簡単な検査ですか
ら、普通はルーチンとして
行う。研修医にも教えてい

「ちょっと常識では考えら
れない。私自身もかつて小
さな病院で宿直をしていた
経験がありますが、患者さ
んが危険な状態になれば、
身近で見ている看護師がし
っかりして危険を伝える
役割を果たしています」
(同前)

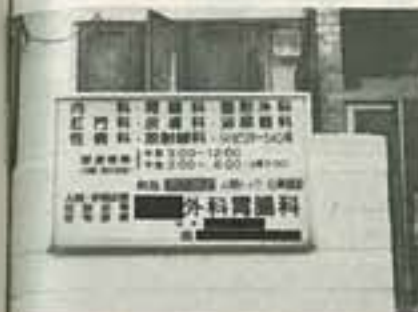
を行う予定だという。裁判を通じて、責任の所在を追及するつもりだ。

それにしても、なぜK外科胃腸科のような体制の診療所が、高度な救急医療を担うはずの二次指定を受けているのか。

この謎を解く一つの鍵は、二次救急医療機関の指定を受けることで病院側が手にする無視できない額の補助金収入にある。

三床の救急患者用ベッドを持っているK外科胃腸科には、年間千六百五万円の委託料が都から支払われている。これは「救急患者を受け入れてもらうための体制確保料」（東京都救急災害医療課）という趣旨の補助金だ。なお、K外科胃腸科が都に提出している事業報

まるで何でも治療可能だと思わせる看板



告書によると、年間の本業収入は約一億四千万円。つまり、同院の収入の大部分以上を補助金が占めている計算になる。

病院経営に詳しい公認会計士の長英一郎氏は、「K外科胃腸科は、二次救急医療を行える規模ではない。制度の想定外だ」と語る。

「実は、救急医療はそこまで儲かるわけではない。診療報酬の特別加算や補助金を受けられますが、それに見合った人件費や設備投資が必要だからです。K外科胃腸科の場合は、そうした必要経費を抑えることで利益を確保しているように思われます。また、収入の大部分以上が補助金という比率は、民間病院としては非常に大きい。一般的には二、三％程度でしょう」

「二次救急医療機関の中には、補助金で息をついているところも多い。しかし、そうした病院のクオリティは担保できているのか、補助金を出している以上は医療内容を検証するべきです。が、いまだ指定を取り消された医療機関は一方所もありません。行政は『わざわざ手を挙げてくれているのに』と厳格な運用に及び腰ですが、収容した患者に適切に対処することができずに死亡させてしまうという、力量不足の病院が現実に見られます」

実は、東京都の二次救急医療機関で子宮外妊娠の患者が亡くなったケースは、今回が初めてではない。二〇〇五年にも世田谷区在住の二十代女性が、搬送先の二次救急病院で死亡している。

夫に無謀な選択を迫った救急隊

さらには一般救急でもたらい回しを防ぐため、〇九年に始まったのが「東京ルール」の運用だ。

「東京ルール」とは、救急患者の搬送を五回断られた場合、地域ごとの拠点病院が受け入れるという東京独自の制度です。これで深刻なたらい回しは減りましたが、搬送困難事例である

「東京ルール」を使った場合には報告義務がある。適用数を増やさないため、『どこでもいいから収容させてしまおう』という意識が救急隊の一部にあることも確かです」（医療関係者）

今回の事故は、一義的には診療所の医療体制に重大な不備があったことが原因だが、「東京ルール」の弊

「二次救急医療機関の中には、補助金で息をついているところも多い。しかし、そうした病院のクオリティは担保できているのか、補助金を出している以上は医療内容を検証するべきです。が、いまだ指定を取り消された医療機関は一方所もありません。行政は『わざわざ手を挙げてくれているのに』と厳格な運用に及び腰ですが、収容した患者に適切に対処することができずに死亡させてしまうという、力量不足の病院が現実に見られます」

実は、東京都の二次救急医療機関で子宮外妊娠の患者が亡くなったケースは、今回が初めてではない。二〇〇五年にも世田谷区在住の二十代女性が、搬送先の二次救急病院で死亡している。

取材翌日に緊急立入検査が

K外科胃腸科は、貴子さんの死をどう受け止めているのか。見殺しにした当事者である院長を直撃すると、拍子抜けするほど危機感のない言葉が返ってきた。

「僕の方は、精一杯やったというつもりはあります。今後も（救急医療は）自分のできる範囲で注意しながらやってくつもりです。救急をやる医療機関はどんな

「二次救急医療機関の中には、補助金で息をついているところも多い。しかし、そうした病院のクオリティは担保できているのか、補助金を出している以上は医療内容を検証するべきです。が、いまだ指定を取り消された医療機関は一方所もありません。行政は『わざわざ手を挙げてくれているのに』と厳格な運用に及び腰ですが、収容した患者に適切に対処することができずに死亡させてしまうという、力量不足の病院が現実に見られます」

実は、東京都の二次救急医療機関で子宮外妊娠の患者が亡くなったケースは、今回が初めてではない。二〇〇五年にも世田谷区在住の二十代女性が、搬送先の二次救急病院で死亡している。

高品質 飛騨靈芝

1kg 30,000円
500g 17,000円

http://www.dai-ryokusan.co.jp/

0120-32-0963

第一薬産株式会社

「東京ルール」を使った場合には報告義務がある。適用数を増やさないため、『どこでもいいから収容させてしまおう』という意識が救急隊の一部にあることも確かです」（医療関係者）

今回の事故は、一義的には診療所の医療体制に重大な不備があったことが原因だが、「東京ルール」の弊

「二次救急医療機関の中には、補助金で息をついているところも多い。しかし、そうした病院のクオリティは担保できているのか、補助金を出している以上は医療内容を検証するべきです。が、いまだ指定を取り消された医療機関は一方所もありません。行政は『わざわざ手を挙げてくれているのに』と厳格な運用に及び腰ですが、収容した患者に適切に対処することができずに死亡させてしまうという、力量不足の病院が現実に見られます」

実は、東京都の二次救急医療機関で子宮外妊娠の患者が亡くなったケースは、今回が初めてではない。二〇〇五年にも世田谷区在住の二十代女性が、搬送先の二次救急病院で死亡している。

「二次救急医療機関の中には、補助金で息をついているところも多い。しかし、そうした病院のクオリティは担保できているのか、補助金を出している以上は医療内容を検証するべきです。が、いまだ指定を取り消された医療機関は一方所もありません。行政は『わざわざ手を挙げてくれているのに』と厳格な運用に及び腰ですが、収容した患者に適切に対処することができずに死亡させてしまうという、力量不足の病院が現実に見られます」

実は、東京都の二次救急医療機関で子宮外妊娠の患者が亡くなったケースは、今回が初めてではない。二〇〇五年にも世田谷区在住の二十代女性が、搬送先の二次救急病院で死亡している。